

総合科学技術会議 基本政策専門調査会
フロンティア分野推進戦略プロジェクトチーム 第4回会合 議事概要

1. 日 時：平成18年3月7日（火） 10:00～12:00
2. 場 所：中央合同庁舎4号館 4階 共用第4特別会議室
3. 出席者：柘植綾夫議員（座長）、阿部博之議員
（招聘専門家（敬称略））
青木節子、井口雅一、今脇資郎、大林成行、久保田弘敏（主査）、
河野通方、茂原正道、平朝彦、高畑文雄、立川敬二、田中明彦、
谷口一郎、中須賀真一、湯原哲夫
（事務局）
清水一治審議官、中村健一参事官、土井良治企画官

4. 議 事：

- （1）分野別推進戦略について
- （2）その他

5. 議事概要：

○中村参事官 それでは、定刻になっておりますので、ただいまから「フロンティア分野推進戦略プロジェクトチーム」第4回会合を開始いたします。それでは、久保田主査の方からお願いいたします。

○久保田主査 おはようございます。この委員会の主査を仰せつかっております、久保田でございます。本日は御多忙のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。今回はフロンティア分野推進戦略（案）について御議論いただきたいと考えております。その前に先月2月22日に開催されました、第17回基本政策専門調査会について報告させていただきたいと思っております。

なお、前回御議論いただきましたフロンティア分野の戦略重点科学技術につきましては、現在、総合科学技術会議議員の間で議論が続いていると伺っておりますし、前回このプロジェクトチームは2月7日に行いまして、ちょうど1か月経ったのですが、その間、中村参事官を中心として各府省との折衝も続いていると伺っております。

その間、私も中村参事官及び柘植議員ともお話をさせていただきまして、その辺の事情をいろいろ伺っております。事情はいろいろ複雑でございまして、大変だということが身をもってわかってまいりました。

柘植議員も大変御努力をなさっておられまして、前回の第3回の終わりにも、このプロジェクトチームからいろんな意見を出していただいて、後押しをしてもらえ

れば、頑張ってくださいとのことだったのですけれども、まさにそのとおりにやっていただいております、心から感謝いたしております。

さっき申しましたように、議員の間の議論がまだ続いているようでございますので、なお引き続いてこのプロジェクトチームでの議論をお願いいたします。

それでは、事務局から配付資料の確認をよろしく申し上げます。

○中村参事官 それでは、机の上の資料を確認させていただきます。

まず一番上に議事次第を置いております。

資料４－１が、招聘専門家のリストです。

資料４－２が、分野別推進戦略の案です。

資料４－３が、戦略重点科学技術選定の考え方。１枚紙です。

その下に資料番号は付いておりませんが、前回以降に招聘専門家の先生方から提出していただいた意見のつづりでございます。

その下にＡ３判で資料４－３別紙というのが付いております。これが戦略重点科学技術の現時点での候補の一覧表になっております。

その下に色刷りで参考資料１、参考資料２が、先ほど紹介がありました２月２２日の基本政策専門調査会における配付資料の抜粋でございます。

一番下に机上配付といたしまして、フロンティア分野に関します重要な研究開発課題の研究開発目標及び成果目標の案を付けております。

以上が本日の配付資料になっております。不足がございましたら、お申し出ください。よろしゅうございますでしょうか。

○久保田主査 それでは、まず２月２２日に開催されました、第１７回基本政策専門調査会について、事務局から説明してもらいたいと思います。

○中村参事官 それでは、最初に２月２２日の専門調査会の説明をいたします。

(参考資料１、参考資料２について説明)

○久保田主査 ありがとうございます。

井口委員、どうぞ申し上げます。

○井口専門家 今のフロンティア分野の説明は後でも何かに出るんでしょうか。

○久保田主査 はい。

○井口専門家 そうするとちょっと細かいことですが、お願いがあるんですが、宇宙の最初のパラグラフでＡＬＯＳの打上げに成功したと最後にありますが、この後でＭＴＳＡＴ－２を打ち上げているんです。ＭＴＳＡＴ－２というのはスーパー３０１条があるからどうこうという議論の中で、国際競争の中で初めて日本が受注した衛星で、私は宇宙開発委員会の委員長と同時に気象審議会、今は気象分科会と言いますけれども、その会長も引き受けているので申しますと、前の「ひまわり６号」では何かいろいろあって打上げを延期したりしていたんですけれども「ひまわり７号」については国産で準備され、完璧に打ち上げられ、今のところ完璧な動作で準

備が進められているということを一言皆さんに御報告するとともに知っていただきたいということで、何か書いていただけるとありがたいと感じます。

○中村参事官 このペーパーはダイジェストだということもございますし、MTS A T-2については分野別戦略の本文の方で少し触れております。ですから、またそちらで補強いただければありがたいかと思えます。

○柘植座長 これは22日の専門調査会の報告ですから、今後そういう推進戦略のエグゼクティブサマリーでこういう形で出るのには、それを当然反映していくということで御了承いただきたいと思えます。

○久保田主査 ありがとうございます。そういうことでよろしく願いいたします。

ほかに御質問、御意見はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、またあれば途中でも出していただくことにいたしまして、基本政策専門調査会の報告は以上で終わりにしたいと思います。

続きまして、フロンティア推進戦略（案）について、事務局案を説明していただきたいと思えます。

○中村参事官 それでは、フロンティア分野推進戦略（案）を御説明いたします。
（資料4-2について説明）

○久保田主査 ありがとうございます。今、中村参事官から御説明をいただきましたように、このフロンティア分野推進戦略の案は、前回からかなり充実されてまいりました。具体的に申しますと「1. 状況認識」の「（2）当該分野に係わる諸情勢の変化」というところで、小項目を「宇宙開発利用の主な動向、情勢の変化」「宇宙開発から宇宙の利用・産業化への移行」「海洋における主な動向、情勢の変化」「海洋における利用を重視した取組の推進」という具合に分けて、それぞれ具体的に書いたということであります。

それを踏まえて、今回新しく出ましたのは「包括的な利用システムの開発」です。宇宙と海洋とを包括した利用システムもあるのではないかとということが加わりました。

重要な研究開発課題につきましては、前回、立川委員からもお話がありましたが、宇宙の重要課題に少し〇を増やしたらどうかというようなお話がありました。それを受けて整理をしたということになっております。

研究開発目標と成果目標というのを具体的に表にして示したということも新しいところでもあります。

「4. 研究開発の推進方策～『生きた戦略』の実現」。これは実は余り議論できておりませんでして、前回の資料でも調整中となっておりましたが、それにつきまして「（1）産学官・府省間・機関間の連携強化」「（2）人材の育成」、この辺は調整中を充実化したというものであります。

最後の「（４）国際協力・連携の推進」というのは、前回ではその他となっておりまして、漠然としていたのですが、これを国際協力・連携という具合に具体化したというところが前回から変わってきたところで、内容につきましては中村参事官が今、説明してくれたとおりであります。

ということで、いかがでしょうか。御質問とか御意見がございましたら、お願いいたします。どうぞ。

○今脇専門家 前の専門調査会の報告のところでもちょっと聞き逃したんですけれども、ほかの7分野ですか、例えば環境と我々のフロンティアはかなり近いので、その辺が専門調査会の中ではどういう議論があったのかということをお聞きしたいんです。

○久保田主査 それは中村参事官から、お願いいたします。

○中村参事官 専門調査会は基本的に8分野からのそれぞれの報告をいたしまして、余り個別的に環境がどうだとかそういうことよりは、例えば全体の重要な研究開発課題の選定の仕組みであるとか、それが各分野ごとにどうなされているとか、どちらかと言うと包括的な話が割りと多かったと記憶しております。

○柘植座長 今のことに加えてですが、参考資料1でございます。分野別推進戦略の策定方針、これは基本政策の中で報告して承認されたわけですが、今脇委員の御指摘のところは、多分右側の下から2つ目の「『重要な研究開発課題』の選定」の中の3つ目の○に「融合領域など分野横断的な課題への取組も明確化」ということと今の御質問は絡んでいると思います。

基本政策専門調査会では、個別の課題までは立ち入る時間がなかったんですが、有識者議員においては、今、御指摘の、例えば地球環境に資する宇宙とか、あるいは海洋、こういう面は横通しで調整をしております。どちらかがリードして、どちらかがフォローという形で進めております。

○久保田主査 ほかに御意見、御質問はございますでしょうか。

○柘植座長 先ほど、井口委員が御指摘のところ、推進戦略の1ページ目の31行目のところですね。ここは8号、9号まで連続成功させたと淡々と書いてあるんですが、先ほどの御発言ですと、純国産の衛星を含めて、ここを少し充実するか、あるいは淡々とこの程度で済ますかというところが絡むと思いますけれども、井口委員、特にこのままでよろしいでしょうか。

○井口専門家 書いていただければ大変ありがたいと思います。つまり国際競争の中で始めて日本が受注して、それがうまくいっているというのは、やはり1つのイーポックと考えてよろしいのではないかと考えます。

○柘植座長 私もそう思います。まさに今回の推進戦略が開発から利用ということを出していますので、それを1つの証として、この9号機のところは少し先ほどの御発言の趣旨で位置づけを訴えた方がわかりやすいのではないかなと思

ます。

○中村参事官 このところはちょっと記述を加えたいと思います。

○久保田主査 あとはいかがでしょうか。

茂原委員、お願いします。

○茂原専門家 多少文言的なことになりますけれども、今の8ページのところで「(4) 国際協力・連携の推進」というのがありますね。今、御審議のとおり、利用の方は軸足が落ち着いて、これは大賛成ですが、利用というのはある面、国際協調でもあるし、同時に国際競争でもあります。文言として、15行目のところに「我が国の比較優位分野の技術を考慮し」と書いてありますけれども、これはもうちょっと強い表現の方がいいのではないですか。

要するにもっと競争力のある技術を抽出して、それを育成するという強いスタンスがあってほしいと思いますが、いかがでしょうか。そういう切り札を持って始めて宇宙が国策ツールなり政策ツールになってくると考えます。

○久保田主査 国際協力と国際競争力。これはどの分野でもそうですね。その辺を強調して書いたらどうかということだと思いますので、それでよろしいですか。

○中村参事官 はい。

○久保田主査 あとはいかがでしょうか。

青木委員、いかがですか。

○青木専門家 まず、1ページ目の30行からのところなんですけれども、M-Vの成功についてはH-II Aではないということを書いていないのでしょうか。1か月に3回成功したということも特記してもいいのではないかと思います。

もう一つは、質問なんですけど、2ページ目のところなんです。2ページ目の3段落になるところなんですけど、第2期の基本計画からの変化につきまして、2つの項目、すなわちH-II Aロケット6号機の打上げ失敗とアメリカの新ビジョンについて書いてありますけれども、今日、回収資料になっています、「我が国における宇宙開発利用の基本戦略」の1ページでは、中国における有人宇宙飛行の成功やということが書いてあるんです。これについてはどう扱うかすごく難しいところだと思います。難しいとは思いますが、事実それが基本戦略を考えるとときに中国における有人宇宙飛行の成功ということがどの程度影響を与えていたのかどうか。もし与えていたのであれば、事実を尊重する。それを明記しておくという知的誠実さみたいなものを重んじる方がいいのではないかと思います。ただ、これはいろいろな含意のある問題だと思いますから、御質問です。

○中村参事官 おっしゃる点を書きながら、実は大変意識していたんですけれども、実際ちょっと迷ったところだったんですが、この文章が世に出ていく前に、特にどういう方が目にするかとか、そういうことを多分考慮しなければいけないのかなと思ひまして、こういう表現にしましたけれども、その辺のバランスの感覚がもう少

いろいろな方から見ていただいて、きちんと考えたいと思います。

○久保田主査 最初のM-Vの件は、正直言うと時間的に間に合わなかったということだと思いますので、これは入れたいと思います。あとの方の中国の有人についてはどうですか。今、中村参事官がおっしゃられたような、この基本戦略に準拠するというのであれば、これと同じトーンでもいいかもしれませんが、この辺は総合科学技術会議でどう考えるかということでお任せすることになるのでしょうか。

○柘植座長 基本的に今の中村参事官の考え方で行くのが一番妥当ではないかと思うんです。今の御指摘のところは今後の議論の中で、我々科学技術行政だけではない面のファクターもありますので、1ページの35行目に書いている事実、ファクトとしての記述で今回とどめることにしたいと思うんですけれども、いかがなものでしょうか。

○田中専門家 私はちょっと記憶が定かではないんですけれども、この基本戦略をつくったときに、そんなに中国の有人宇宙飛行のことを気にしてつくったかなという感じもしているんです。これは事務局の方が記録を調べていただければわかると思うんですけれども、もし先ほど青木先生がおっしゃったように、こういうことがいっぱい議論されていて出ているのなら、書かなければいけないかもしれないけれども、私はそんなに影響されていないのではないかなという気がするんです。

○久保田主査 ありがとうございます。では、それも踏まえて議員の方でお考えいただければと思います。

立川委員、どうぞ。

○立川専門家 本日のフロンティア戦略を確定するに当たって、ちょっと聞きたいのは、5ページの「2. 重要な研究開発課題」で第3期の研究開発課題を定め、具体的な研究项目的なものを含めるというのが本来の主眼ですね。

そう考えると、まず5ページのところは、なぜこれだけにしたかという感じが出ないのは、例えば、宇宙の方で見ますと、○が4つ並んでいる上に「宇宙開発利用および宇宙科学それぞれの重要な研究開発課題は以下の通りである」という書き方ですが、むしろ第3期はこういうふうにしたいという意思が出ないと変じゃないかなと。

それは前に情勢分析をやったんだから、第2期と比べてこうしたいというニュアンスがもっと出てもいいのではないかという気がしたんです。そのトーンで次の研究開発の目標が出てくるんだろうなと思います。

最終的に重要なのは、この研究開発課題と目標ではないかと思うんですが、説明があっさりいってしまったんですが、この辺は問題ないんですか。この中でもどれを重点にするかというのを議論しなくてもいいのかなという気はするんですが、資料4-3は次に出てくるんですか。

○久保田主査 戦略重点とするものをこの中から抽出するというのは、その次の段

階です。

○立川専門家 だけれども、このフロンティア戦略としては戦略重点も入れるのではないですか。戦略重点科学技術も上げて、更に最終的には国家基幹技術として何を提案すべきかというのは、これは別様になるかどうかは知りませんが、そこまで踏まえるべきではないかと思うんですが、今日の資料には一番最後はないですね。

それから、資料4-3の重点科学技術候補の方がどういう扱いになるのか、ちょっと疑問なので、なぜ本文に入らないんですか。

○中村参事官 済みません、私も説明の過程で言い忘れたんですが、先ほどの専門調査会の参考資料1を見ていただきますと、この構成項目の中に最後「戦略重点科学技術」というのが付いておりまして、つまり5章に当たる部分にこれが入ります。

したがって、この本文の案でも8ページの後には5章が来ることになりますので、この後で御説明いたします戦略重点科学技術の選定されたものが、ここに選定理由とともに載ってくるという全体構成になります。そこでどういうものを絞り込んだかというのがはっきりするんですが、ただ重要な研究開発課題の5~6ページの辺りは、やはりおっしゃるようにもう少し、重要なというのを付けている以上はきちんとどういう観点でというのをわかるように、ここに一応書いてはいるつもりなんですけれども、わかりにくいということだと思いますので、そこは工夫をさせていただきたいと思います。

○柘植座長 是非、今の参事官の方針で、10~13行目のところは、いわゆる重要な研究開発課題としてのプロジェクトで選択をしてきたという意味が伝わるような話にしたいと思います。

私もこれを非常に気にしておりまして、先日の本会議のときにも、重要な研究開発課題というのは、言うならば6つの政策目標実現、それを支えています12の中政策目標実現、それにつながっていく道筋。その下での重要な研究開発課題というものを有識者の意見を入れながら選択をしてきたということでありまして。

ですから、その辺のことが確かに御指摘のとおり「以下の通り」というのは意思が余りにも客観的な話になってしまって、ここは少し修文した方が今までの活動の位置づけが外からも見えやすくなると思います。

○立川専門家 おっしゃるとおりで、是非そうしていただきたいんですけども、そのときにたしか第2回目だれか言われていたと思うんですが、この宇宙のところを見るとデルファイ調査の結果で決めたような書き方が多過ぎるんですが、せっかくこの委員会をやってやったんだから、委員会の意思を入れるべきだと思います。

しかも、デルファイ調査はどういう技術をやすべきかということ調査したのであって、そのうちどれを官でやるべきかを調査したわけではないでしょう。だから、デルファイ調査で国がやるべきことが決まるわけではないと私は思うので、そうい

う観点で言うと、やはりここの意見は反映してそう決めたというふうにでもしていただかないと、ここの役割はないですね。そういう印象です。

○久保田主査 ありがとうございます。確かにそうですね。ただ、デルファイ調査の中には、これは官でやるべきものはどのくらいかという調査結果もあったかと思うのですが、それだけを使うのではなくて、それを基にして、ここで議論をしてこうなったというのはおっしゃるとおりだと思いますので、そういうことにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

では、今の議論のように、重要な研究開発課題はこういう具合にして選ばれてきて、その中で更に戦略重点としてこう選んだというのは第5章に書くということで、具体的に第5章のことを考える。更にその上で国家基幹技術は何かということも、この中に入れます。その段階で最終的には国家基幹技術まで書き込むということになるということでもあります。

では、時間も切迫してきましたので、戦略重点に入って、もし文言についてご意見があればその間でお話しいただくことも可能かと思えます。今、特にこれについて御意見はございますか。

○井口専門家 7ページ目の「(2)人材の教育」なんですけれども、これは大学までのことしか書いていないんです。本当に必要なのは企業に入ってから、宇宙であればJAXAに入ってから、その優秀な人たちをどうやって、もっとはるかに優秀に育てていくかというのが一番大事なんです、ということを一言。

○久保田主査 それも反映できるようにいたしましょうか。ありがとうございました。

○湯原専門家 7ページでありますけれども、本文中には海洋利用技術がたくさん書かれるようになりまして、それは大いに評価できるんですが、7ページの11行目からですが「産官学の研究開発コミュニティを形成し、一元的な取組を推進することが必要である」と書いていただいております。

その次に「海洋開発関係省庁連絡会議等によって、関係省庁の密接な連携を図るには限界があり」と書いていただいております。更に「食料、資源・エネルギーの基盤の強化、新産業の創出および我が国の安全保障、海洋権益の確保のために、より一層の府省間連携の方策を検討する必要がある」と書いていただいておりますね。そのとおりであります。もう少し踏み込んで、それでは、この第3期のうちに具体的にどういうふうにそれを進めていくかということまで書いていただきたいと思うんです。

例えば、総合科学技術会議が司令塔となって産官学による我が国の海洋開発利用に関する基本戦略を早急に立案すべきである。例えば、そんなふうにもう少し踏み込んだ形で検討が必要であるというのも勿論そのとおりでありまして、もう一つ具体的にこうやるべきだと、早急に我が国としての海洋の基本戦略を産官学で立案す

べきであるというようなことを書いていただけますと、非常に活きた戦略になるのではないかと思います。よろしく願いいたします。

○柘植座長 湯原委員のおっしゃることはよく理解しております。ただ、私は担当議員として、まずここまで課題設定をしたということは、ある意味では非常に重いことでもあります。4月以降、この全体の第3期の実行の中において、ここに書かれた話というのはフロンティア分野の中では課題設定としてきちんと残ります。

そういう全体の中でこれから総合科学技術会議の司令塔を発揮というのも答申の中に、はっきりと最後に書いてあります。それでは、その中でどんな門構えで、その門構えの中のそれぞれ、フロンティアも含めて、ここに指摘されたような課題に対してどうしていくかというのは、まだこれから有識者議員も含めて議論をしているところですので、今の御指摘のところをここに明文化するというのは少し早過ぎる。気持ちとしては私はサポートしますので、是非とも今日の時点では、3つほど非常に重要な指摘をしたことでとどめたいと思うんですけども、いかがなものでしょうか。

○湯原専門家 今後、おっしゃられたように4月以降、そういうことで協力させていただきますので、よろしく願いいたします。

○久保田主査 ありがとうございます。

それでは、資料4-3、第5章になる「戦略重点科学技術」の案の説明をお願いしたいと思います。

これにつきましては、前回事務局案が出ておまして、それに対して各方面からたくさんの御意見をいただきまして、それを基に事務局が、しかもいろいろなところと折衝を重ねながらつくられたというものであります。説明をお願いいたします。

○中村参事官 (資料4-3について説明)

○久保田主査 ありがとうございます。補足いたしますと、お手元に招聘専門家提出意見という束になった資料がございます。これは前回の委員会の後に各委員からいただいた意見です。戦略重点科学技術選定については、この意見も含んで考えているということでもあります。

更に前回の資料は今お持ちではないかと思うのですが、言わばこの別紙4-3を見ますと、利用を重視すると言いながら衛星の利用というのは少ないじゃないかという感想を持たれるかもしれませんが、実は環境分野でも提案されているものがあります。

前回の資料で言いますと、温室効果ガス、観測技術衛星、全球降水観測、二周波降水レーダー、地球環境変動観測ミッション、陸域観測技術衛星、こういうのは環境の方で確保されていると私は了解しているのですが、それも入れますと衛星利用の項目はかなり増えていると考えていいかと思っております、というのが補足であります。

もう一点、これは質問にもなるのですけれども、資料4-3で「戦略重点科学技術選定の考え方」というのがありまして、○2つをここの戦略重点科学技術に入れたいという事務局案ではありますが、この戦略重点科学技術は、これは考え方を文章で書いてありますが、これを名詞形にする必要はないのでしょうかということです。

例えば、1番目は、独自の宇宙輸送手段とか、2番目は、宇宙・海洋の利用の何とか何とかということになるのかなということもちょっと思っております。

これを基にして今度は国家基幹技術を決めなければいけないのですが、実はここにもまだ資料が出ておりません。これをどうするかというのは、これについては中村参事官の方から方針等をお話しいただけますか。

○中村参事官 その前に、○が戦略重点科学技術というふうに申し上げたかと思うんですが、この1.と2.の表現が、これもまだ名詞になっておりませんが、これに相当する部分を戦略重点科学技術として表現していくというふうに訂正をさせていただきたいと思っております。

それから、国家基幹技術については、現在、戦略重点科学技術と並行して調整を進めておると思っております。私も直接的に全部参加をしておりませんので、わからないところはあるんですけれども、これも最終的には分野別戦略に載せるということで、全体の調整を今しているとお考えいただきたいので、この場で、どれがということはまだ言えない状況であるということで御了解いただきたいと思っております。

数を非常に少なくしなければいけないと、3~4つと御紹介したかと思うんですが、そういった中でたくさん候補はあるようですので、どれに絞っていくかということも含めて、今、検討中であるということでございます。

○久保田主査 ありがとうございます。

○柘植座長 議員として是非お願いしたいのは、まず今日はこの戦略重点科学技術というものをどうして選んだのだと、まず資料4-3の考え方が基盤になります。これなくして国家基幹技術のいわゆる論理というのは成り立ちませんので、先ほどの基本政策の答申に書いてございますように、国家基幹技術については総合科学技術会議が精選し厳格に評価するというので、今、議員の中でも既に検討を開始しております。

最後のときに私も議員としての意向は述べたいと思っておりますが、今のこの議論は戦略重点科学技術の選定の考え方、中身に議論を集中していただいきたいと思っております。

○久保田主査 柘植議員のおっしゃるとおりだと思います。ただ、私はちょっと申し上げようかと思ったことは、各委員から提出意見をいただいて、その戦略重点科学技術選定の考え方もこの意見の中にありますし、それを基にして国家基幹技術についての提案もありますので、それを最初のうちに御紹介しておこうかと思いたったものですから。

○柘植座長 時間の制約から考えると、戦略重点科学技術を先に絞って議論をしていただきたいと思います。

○久保田主査 わかりました。では、いかがでしょうか。

立川委員どうぞ。

○立川専門家 2点に絞られて大変結構だと思うんですが、ちょっと細かい話で申し訳ないんですけども、まず宇宙輸送手段で、信頼性を世界のトップレベルを超えなければいけないんですか。こういうことは5年間ではできないかと思しますので、せめて世界トップレベルの信頼性を確保する独自宇宙輸送手段にしてもらいたいです。成功率90%というのは相手も変わりますから、入れても余り意味がないと思います。そのくらいの感じにさせていただいた方が、5年間先の話ですから余り定量性で担保されても困るなという気がします。

これに基づいてこの項目が選ばれたにしては、ちょっと合わないなという感じがしないでもないんですが、そういうことになるんでしょうか。しかも、ちょっと気になっているのは、この重点科学技術を18年度予算の金額を基にして選定されたのでは、その後出てくる項目は入らないということですか。19年度以降に取り組む施策は入ってこないという恐れがあるわけで、そういう点はどういうふうにお考えですか。これは質問です。最初のは意見です。

○中村参事官 質問の方にお答えしたいと思います。これはあくまで今回のまとめ方が18年度で挙げられている予算に対して、これはあくまで目安ですけれども、合計するとその何%以内というのを作業方針とするということでありますので、例えばおっしゃるように19年度から始まる事業があったとして、その場合にはカウントとしてはゼロになります。

そういうカウントをしますので、19年度以降のものを排除しているということはありません。たまたま、今、宇宙の場合は全部18年度は張り付いていましたので、かなり小さいのはありますから、そういうのはそれに近いということはおわかりいただけたと思いますけれども、そういう観点で選んでおります。

○柘植座長 議員として申し上げたいんですが、そうすると資料4-3のところの修文の御提案はどういうふうにしたらいいか。

その前に、視野として5年間の研究開発目標と、それから最終的な何年、10年かかるかもしれませんが、その目標と、最終的に社会・国民への還元する成果目標と3段階の目標を各論では設定されますので、その考え方を包含する表現で私はいいと思うんです。ここは5年間のコミットメントではないと思っていますので、そういう面でどういうふうに修文したらいいか、今、御意見を願います。

○立川専門家 具体的に言うと、「成功率90%以上」を切って、日本は常に世界トップレベルを超えなければいけないと思込むかどうかだから、そこまで思込むことはないのではないかと思います。世界のトップレベルの信頼性を確保した独

自というぐらいの感じでいけばいいのではないかと思います。

日本は何でも世界を超えなければいけないと思ったのでは、ちょっと問題ではないかと思えます。世界を超えるなら、もっとお金が要ります。こんなくらいのお金でやっていたのでは、世界は超えられないと思えます。

○柘植座長 90%という括弧の中を外すことは1つあると思えますけれども、超えるということは、たしかどなたかが言われたのを反映しているかと私は思っています。議員の中のディスカッションだったかもしれませんが、やはりここを超えるというのを私としては残すべきだと思うんですけれども、あえて世界トップレベルでいいんだということで、このところは非常に大きな別れだと思えますけれども、いかがなものでしょうか。

○立川専門家 超えるとおっしゃった方に意見を聞きたいんですけども、それをやるのなら、このくらいのお金では世界のトップは超えられないですね。

○茂原専門家 私は決して超えると言ったわけではございません。私も理事長の意見には大賛成です。やはりこの輸送手段とは何かということを基本的に考えなければいかぬと。そうするとやはり率直に申し上げて、要するにどんな積荷でもいつでもどこからでも確実に上げてくれるというのが輸送手段の目的と考えます。

だから、そういうロケットを準備するというのは非常に大事なことです。積荷があってロケットという視点からすると、すごく行き過ぎているのではないかという感じがします

それから、自在性云々では、A3（机上配付資料）の1ページの3の「宇宙輸送システム」のところの成果目標のところにありますけれども「我が国が必要な衛星を必要に応じて自律的に打ち上げる能力を確立する。また、中小型から大型の衛星の打上げに対応できる能力を維持・確立する」と書いてありますけれども、これはそのまま読むと、すべての衛星に対して日本が日本のロケットを準備するという具合に読み取れます。本当にそこまでの御意思があるのかどうか。これは非常に重要なことです。

別言しますと、今はずっとH-II Aに軸足を置いて開発していますけれども、H-II Aは非常に強力な能力を持っているけれども、今の世界の趨勢である小型とか中型の打上げにはとても適応できないわけです。全部日本でやるとすると、その部分を非常に強化しなければなりません。逆に言うと、現実論として、やはりある程度は世界のロケットを使うという側面も必要ではないかと思えます。その辺をどうお考えなのか。

○柘植座長 私は議員としては、3月の本会議で重点戦略技術候補も含めたものを絞り込みたいということで非常に集中しておりまして、今の御指摘のところは、私はかなり宇宙開発の根幹に関わる、すなわち私どものベースになるのは16年9月9日の基本戦略が基本的にベースになっている。

先ほど、ここの中に書き込んでいますが、微小な調整としては今回の分野別推進戦略を優先すると。先ほど説明がありましたけれども、私は基本的にはその考え方に基づいて、もし必要ならば修文をすればいいと思いますけれども、考え方についての議論というのは、このところはこういうふうには修文しろ、逸脱しているから修文しましょうという御提案をいただいた方が収束しやすいんですけども。

○茂原専門家　そういう意味で、先ほどの超えるとか独自という言葉は、端的に言いまして、研究テーマに対する形容詞です。むしろここで利用ニーズに応じたというキーワードがいろんなところで出てきますから、例えば「世界トップレベルの信頼性を維持し、利用ニーズに即した宇宙輸送手段を確保する」。利用ということを強調するならば、そういう文言があるのではないかと思います。独自というのは非常にわかりにくい言葉です。何を言っているのかわからないと思います。

○久保田主査　独自というのは、上の自在性というのと恐らくイコールだと思うのですが、茂原委員もおっしゃったように、すべてを用意しなければいけないことはないというのはそうだと思います。ただ、やはり自分で打ち上げるものは一応つくっておき、大、中、小の輸送手段という意味で考えておいた方がいいということで、独自ということだと思うのです。

○田中専門家　これは結局、国として自在に打ち上げられるという意味ですから、日本にいる企業とか、あるいは場合によると研究者が必要に応じて衛星を打ち上げられるものすべてについてということではないんだと思うんです。

ですから、このところで戦略重点科学技術選定としてこれを行うのは国として行うわけで、人類の一員として行っているわけではなくて、日本という国家が集中してやるということですから、このところで読めるのは、国として自在に打ち上げられる。国が国家として何かを打ち上げたいと思ったときには、必ずその手段があるということと理解すればよろしいのではないかと思います。

信頼性は、トップレベルといい、それを更に超えるというとナンバー1ですから、やはりこれは先ほど理事長がおっしゃったように、トップレベルと言えればそれで、つまりワン・オブ・ザ・トップスであるということで、それほど大きな問題は生じないという感じがします。

このトップレベルを超えるというと、アメリカよりも優れた独自の信頼性を持つということになると、これは大変な話ではないかという気がします。

○柘植座長　議員としては、この括弧のところは外す。超えるというのも、このいわゆるトップレベルの信頼性ということだとどめるということ。独自については先ほどの形では、これはもう国の政策という形ですから、国という今の田中委員のおっしゃったことで修文しないということにしたいと思うんですけども、いかがなものでしょうか。

○河野専門家　ちょっと変わった角度から質問をさせていただきたいんですけど、前

回までの話ですと、確かにこれは両議員がおっしゃっていたことなんですが、やはり15%という枠内でやるのは厳しいのではないかなというような了解がありそうだという話をされて、それで2月22日の調査会以降において、これをなるべく増やすように努力されるということで、我々は非常に感激したんでございますが、今日はまだその何%にするかというようなことは余りなくて、今、調整中というものが入るかどうかなというような議論が行われているということだったんですが、3月15日に次回があるとおっしゃったのでしょうか、そのときまでにどういふふうにお決めになるのか、あるいはそこら辺の見通しはどうかということもお伺いしたいと思います。

○柘植座長 担当議員としてお話をしたいと思います。

前回、たしか私はこの場で申し上げたのは、この20%、15%議論の中で、これは国の科学技術経営をやっている、まさに経営という言葉を使いますが、経営の目標数字として、これはやはり決めるということ。これは議員の間で決めました。

同時に各論をしていったときに、国のそれぞれの当該の科学技術政策を大きく歪めるようなものがもし出てくるならば、それは件別でしっかり議論をする、評価をする。私は担当議員として総合科学技術会議の中にいるわけございまして、既に各議員の間でも議論の中でそういうことを言っております。

ですから、今日は15%議論というよりも、むしろこの資料4-3の中で、特に調整中の部分につきまして、私に武装させて、武装という言葉が不穏当ですけども、理論構築をお助けいただきたい。前回もそれは同じく申し上げました。

現在、調整中というのは、ここに書いた選定理由の考え方にとったベースで、私は是非この戦略重点科学技術の中に入れるべきである。これを15%の数字の中に、あえて優先することよりは、むしろこの選定理由の方を優先すべきであるということで、今、私としては主張をしております。

全体的な数字がどうなっていくかというのは、その次の段階で、議員の中でやはり我々総合科学技術会議として、当事者能力と言いますか、そういう別な経営的な面も含めて、最終的に数字の話は決めざるを得ないと思っておりますが、選定理由に立って、私としてはこれは削ってはならないという立場で主張しております。現状はそういうことございまして、是非お助けいただきたいというのが私のお願いでございます。

○河野専門家 今のお話ですと、守るとおっしゃったのは、弾がないので弾をくれとおっしゃっているようなあれですね。敵はだれかわかりませんが、それでは今日すぐというわけにはいきませんが、近々中のまた御意見を差し上げるということも可能だということでしょうか。

○柘植座長 是非とも、選定理由のこの文章で、ここが欠けているというのを是非はっきり、今日中にいただきたいというぐらいでございますので、むしろこの場

で選定理由の書き方がこれでは弱いとか、それが欠けているということを書いていただきたいと思います。

○久保田主査 今、河野委員の弾を出すというのは、これ以外に何か出そうということをお考えですか。そうではなくてこの中ですね。

○河野専門家 今おっしゃった選定理由。

○久保田主査 わかりました。それぞれの選定理由を読みますと、それらは宇宙、海洋の利用のために必要で、しかもキーワードは「産業化」であると思います。これは非常に強い弾になっているのかなと思うのです。調整中になっている項目のキーワードは「産業化」です。

○谷口専門家 資料4-3であります。意見と言いますか、提案であります。私は2番を1番に、1番を2番にという順序を変えていただけたらいかかなと思っております。

先ほど、参事官と主査から御説明がありまして、今までの意見を集約してというお話がありました。資料4-2を今日御説明いただきましたが、今までのディスカッションも十分取り入れられて、大変立派になったと思って感謝しております。

また、先ほど御説明になりました参考資料2。これは専門調査会の各分野の1ページ目に出てくるものですから、大変重要だと思っておりますが、右下の「第2期と比較した第3期のポイント」というのもあります。これを通じてうたわれているのは、要は利用ですよ。それから、先回のこのPTでも各委員の先生方からは、もう利用に移ったんだということが相当主張されたと思うんです。

したがって、もしこの1番、2番という順に意味がないのであればいいんですが、意味があるのであれば、私は順番を変えた方がいいのではないかと感じました。

資料4-3の調整についての御説明がありまして、今、河野委員からも御質問がありました。例えば、測位衛星システムについては社会基盤へというお話もありました。

しかしながら、重要であるということはお話しておいていただきたいものですから、例えば、ここの2番ですね。私の提案する1番。「宇宙・海洋の利用のフロンティアをきり拓く、宇宙に関する各種の観測・監視及び測位データの包括的な利用技術を開発する」というようなことで、測位の重要性はしっかりとおいていただきたいということと、調整についていろいろな議論があるのであれば、やはりどこかのほかの分野で取り上げるんだということを担保していただかないと、やはりその15%問題に引っかかってくると思います。

要は書いていないと削られるという第2期の反省が、私はもうこびり付いていまずから、切り落とされた途端に、もうお前死ねということと同じになるのではないかという危惧は今もってぬぐい去れません。その点だけ意見として申し上げます。

○久保田主査 ありがとうございます。測位を他分野で担保しているというのは、

私も先ほど申し上げたんですが、これはどの程度確実かということも言えますか。
○中村参事官 まさに調整中でありまして、柘植議員がいろいろほかの有識者議員等とお話ししながら決めていく部分だと思っております。

○柘植座長 今回の谷口委員の話で、まず測位の話ですけれども、今、参事官が言ったことでもあります。私としては、これは単純に科学技術の政策だけで決められるものならば、すぐに私の責任でも決められるんですけれども、やはり社会・国民へ還元ということになってきますと、科学技術行政と違うものも入ってまして、まさに調整ということにさせていただきたいと思えます。

一方で、もう一つ谷口委員のおっしゃった、資料4-3の1.と2.の順序関係ですけれども、私も余りこだわらないんですが、しかし、科学技術の政策の論理としては、やはり1.の世界トップレベルの信頼性まで来ていないという現状に対して、やはりここは戦略重点課題の考え方に立って、この5年間に集中すべきだという論点からすると、1番目に書かざるを得なく、国民の利用からしますと、多分、谷口委員のおっしゃった2.から、もうこういう段階なんだからという形であると思いますが、科学技術の政策の面からは、やはり1.を顕示した上で2.のコミットメントということをして今の段階ではせざるを得ないと思いますが、ほかの委員の方々の御意見も含めてどうでしょうか。

○谷口専門家 ただ、そうなりますと、この4-2の論調とはちょっと雰囲気が変わるんです。だから、4-2は今までと相当変わってきていますね。それはこの間までのここの議論が相当反映されたんだと思うんです。ですから、ここの本文に書いてあることと若干ニュアンスが変わってくるのではないのでしょうか。私はそんな印象です。

○久保田主査 私もこの順序については、多分御意見がいろいろ出てくるのではないかと感じておりました。やはり利用ということを見ると、それが先に来るべきではないかという御意見が多分あるだろうと感じておりました。

ただ、柘植議員がおっしゃったように、科学技術ということを見ると、まず科学技術があって、それを利用に移して、勿論利用を下に置いているわけではないけれども、すなわち、利用は十分第一義だけれども、書く順番から言うと、今のままでいいとおっしゃっているように受け取ったのです。したがって、心としては勿論利用が第一義だけれども、インフラとしての輸送手段があるので、書き方としてはこうなるということをおっしゃったのではないかと感じております。いかがでしょうか。

そういう意味で4-2には勿論、皆さんのお考えの認識があるので、だから、この順序は別に1番がいい、2番が劣るということではないという理解にさせていただければよろしいのですね。

○平専門家 今回の宇宙だけの話ではなくて、4-3に宇宙・海洋というふうに並列

してフロンティアだとしていただいているのは大変ありがたいというか、それがまさにフロンティアだと思います。

1. のところで「宇宙・海洋のフロンティアにいつでも自在に到達できる技術」という大くくりをしていただいているわけですが、その中から宇宙輸送手段を確保するというのが出てきている。

2 番目は利用のフロンティアということですが、これも地球全体ということで、恐らくここに海洋も入るのかなというような気もしますが、海洋は予算もかなり厳しいということで、22~23 億円程度ということなのですが、予算の大小ということよりも、やはり海洋は 1、2 にまたがっていると思います。

例えば、「ちきゅう」のような技術というものはフロンティアにいつでも到達できる技術ですし、また利用も開拓していくという。そういう意味では余り海洋の部分は分業はされていない。ですので、海洋をどちらかに押し込めるということよりも、私も 1、2 という順序はある意味では非常に気になるんですが、もし 1 というものが意味があって、フロンティアに自在に到達できる技術というのがやはりプライオリティが高いんだという話だったら、地球というものに到達できるということ宇宙と一緒に入れていただきたいし、もし地球を監視、データの包括的な利用というのは我々は気になる場所があるんですけど、これは監視の技術そのものもあるんだろうと思っておりますが、それがもしプライオリティが高いということであれば、こちらにも入れていただきたいということで、何かどちらに押し込めるということではなくて、全体にまたがっているということを御認識いただいて、宇宙・海洋というくくりで是非その海洋技術をプライオリティの高いところに入れていただきたいと強く思います。よろしく願いいたします。

○ 柘植座長 御指摘のところは、私もサポートしたいと思うんです。そういう意味で資料 4-2 のフロンティア分野推進戦略（案）の 5 ページの 20 行目が「海洋」という看板を掲げているんですけど、中身を見ると、やはりこれは地球内部のことも含めて書いていますので、まず 20 行目のところを海洋・地球とした方が正確なメッセージになると思います。ちょっと戻ってしまったんですけども。

それに基づいて、資料 4-3 の戦略重点科学技術の候補の 1. と 2. も宇宙・海洋・地球のフロンティアという形で修文した方が国民からもわかりやすいと思うんです。私はそういう提案をしたいんですけども、いかがなものでしょうか。

○ 久保田主査 中村参事官が困っておられるのは、地球という言葉が入るとまずいことはありますか。

○ 立川専門家 地球と海洋はダブっていますね。だから、ダブったもので 2 つも定義するのはちょっとなじまないでしょうと、事務局はお考えになったのではないかと思います。意見としては、地球を入れるなら海洋を抜いてしまう格好になります。宇宙と地球と言ったらそれぞれ論理がありますから、宇宙の中に地球も入ってしま

うということも言えるかもしれませんが。

○久保田主査 平委員、いかがですか。

○平専門家 なかなか難しい話で、うちの方は海洋研究開発機構でございますので、英語にするとマリーン・オーシャン・アンド・アースなんですけれども、そこでちょっといろんな見かけの部分的なところもありますので、各省庁ともまた御相談いただきたいと。私個人では海洋と地球と2つ入っていただければ、いいかなとは思いますが。そういう意味では柘植先生の意見に賛成します。

○柘植座長 そうしたら事務局と私と各省庁も含めて、ちょっと預らせてもらうという形でもよろしいでしょうか。やはり国民から、あるいはいわゆる台所を預かっている財務からも見て見やすいものにするという、我々も科学技術の論理だけではわかりにくいところもあると思うんですけれども、我々に預らせていただくという形でもよろしいでしょうか。

○久保田主査 それでよろしければ、そうしていただければと思います。

今までにいろいろな議論がありました。まず、最初の選定理由の理論武装化という提案もありました。先ほどの戦略科学技術選定の考え方で、順序を変えるべきだという御意見もありました。これらについてはどうでしょうか。今できるだけ御意見をいただいておいて、それを基に柘植議員に頑張っていただくということになると思うのです。

○田中専門家 さっきの順番、1と2というので、谷口委員は2の方がということ、確かにこの分野推進戦略の中で書いてあることは利用について非常に重視している、そういう議論になると思うんですけれども、私は柘植議員がおっしゃったような形で、このままの順番がよろしいのではないかと思います。

参考資料1の重要な研究開発課題の中から戦略重点科学技術をどうやって選定するかというのが3つ書いてあって、社会的課題を早急に解決するために次期5年間に集中投資とか、国際的な科学技術競争に勝ち抜くために次期5年間に集中投資とか、国家的な基幹技術として次期5年間に集中投資とみんなあるんですけれども、どちらもそうだと思うんですけれども、やはり1が確立しないことには2もなかなかいかないということからすると、次期5年間に集中投資というその心を少し前に出すためには、この順番の方が私はいいのではないかと思います。

○久保田主査 ありがとうございます。ほかに御意見は。

○茂原専門家 私は結論から言ってしまうと、谷口委員がおっしゃったように、やはり2番を最初に持ってくるべきだという意見であります。それはなぜかと言うと、多分この場にいらっしゃる方々以上に国民は、ここの総合科学技術会議の結論を重要視し期待を持って見ているわけです。それは何を期待するかというと、これから日本がどちらに向かうかという非常に大きな志を持ったような理念が含まれるかどうかということだと思います。そういう意味では非常に大事な結論だと思います。

そういう重要性と言いますか、大きな視点という立場からすれば、やはり順番としては長期で包括的なビジョンが先にあるべきで、宇宙を利用するのだと方向転換をしたわけですから、利用という大きなビジョンがあって、その中で必要な要素を開発していくということだと私は思います。

輸送系は確かに非常に大事な事項ですけれども、これはやはりあくまでも利用するための1つの要素ですね。利用するためには、ほかに衛星の技術もいろいろあるし、データ処理の技術が要るし、ロボットの技術要るというように、多種多様な技術が要るわけです。そういうものが総合されて利用が出てくるわけです。

これもあえて申し上げますけれども、日本はここ40年間ロケットに注力してやってきたわけです。しかし、最近こういう声が非常に聞こえてきます。「40年間何やってきたの？後発の中国もできたようなロケットがまだできていないじゃないか」と。

ロケットに課題は残っているけれども、それを最優先で国民にまた5年間努力しましょうというのには、ちょっと何か国民の期待にそぐわないのではないですか。やはり利用という大きなビジョンを提示した上で、その必要な要素は落ち度なく開発するというスタンスを是非国民のために示していただきたいというのが私の希望です。

○柘植座長 この件については、私は皆さんの御意見をよく理解いたしましたので、任せていただきたいなと思います。

田中委員や私の見方もやはりそれぞれ理があるわけでございます。それから、今の谷口委員、茂原委員のおっしゃったことも確かでございます。科学技術の政策の順序として、勿論、社会・国民にビジョンを提示することを優先するか、あるいはやはり我々を支えている技術がまだ世界トップにまで来ていないということもわかってもらって、そこにこの5年間の中で投資せざるを得ないということも、我々の立場から言う責任があると思うんです。この辺がどちらの順序にするかということの議論だと思います。結論は私に任せていただくかざるを得ないかだと思います。

○久保田主査 両方の意見は十分御理解いただいたと思いますので、あとは柘植議員にお決めいただくということでしょうか。

それから、先ほど議論になっていたインパクトのある選定理由をつくるという仕事があります。これについては、今、御意見を出していただいてもよろしいのですが、もうちょっと時間があるかと思っておりますので、この会合の後でも御意見をまた事務局に送っていただく。それを基に事務局でインパクトのある選定理由にまとめていただいて、柘植議員に頑張ってくださいということでもよろしいでしょうか。

そうしますと、戦略重点科学技術の考え方と候補案ということは、大体この辺だということで御理解いただきまして、あとは議員の議論に委ねることになるかと思っております。

国家基幹技術については、このうちから選ぶということになるわけですが、戦略重点が決まらなると国家基幹技術も決まらないこともあります。ただ、先ほど申しましたように、各委員からの提案もありますので、これをちょっと御紹介しておいて、御議論の材料にさせていただければと思います。

谷口委員は、前回資料に出ていました宇宙輸送システムと災害危機管理情報収集通報システムという2本立てがいいのではないかとされていました。

立川委員は、宇宙空間利用システムを提案されていました。

井口委員は、宇宙空間の利用システムを提案されていました。

平委員は、次世代深海・深海底資源探査技術を提案されています。その中には恐らく先ほど来の宇宙と海洋、地球も含めてということだと思います。

茂原委員は、安全環境資源のための統合地球監視システムというようなものを提案されていました。

こういうことを御紹介しておいて、あとは議員に委ねたいと思います。

以上ですが、今日いただいた御意見は、柘植議員に十分お聞きいただいたと思いますので、これをフロンティア分野推進戦略に反映させた上で、3月中旬とおっしゃった基本政策専門調査会に報告されることとなります。

ただし、その前に今日の議論も含めて、原案をまた事務局がつくりまして、皆様にお送りする。その前に、さっきお願いした選定理由のインパクトがある書き方をできるだけ早くいただければ、それも入れてつくれるということでもあります。お送りした原案をまた修正して、いろんなことを御指摘いただければということになっております。

最終的には、これも柘植議員がおっしゃいましたが、3月末に本会議があるのですね。ですから、それまでには意見を集約して行って、戦略重点科学技術を決めるのと同時に国家基幹科学技術も決めるということになるかと思います。

柘植議員には、議論の途中でもいろいろと御意見をおっしゃっていただきましたが、最後にもう一度御挨拶をお願いします。

○柘植座長 12月から4回にわたります、皆様、本当にお忙しいところ時間を割いていただき、フロンティア分野につきまして、推進戦略の貴重な御提言をいただきました。

今後の予定につきまして、担当議員として2つお話をしたいと思います。1点目は、本日の各委員からの御意見も含めて、総合科学技術会議の有識者議員の中で重要な研究開発課題とそこでの戦略重点科学技術。その中に含まれる国家基幹技術というものをこれからファイナライズして、3月15日の基本政策専門調査会、22日の本会議に諮って決定をしたいと思います。

今日は、戦略重点科学技術について、各委員の方々から御意見をいただきまして、これもできるだけ反映いたします。この反映は、私はこれをきちんとしていくこと

で、逆に重要な研究開発課題の価値というものを我々はきちんと主張できる。私はそういうふうに複眼的に見ております。戦略重点科学技術に全部押し込んでしまうということでは、かえって重要な研究開発課題の位置づけ、主張点が逆にぼけてしまうのではないかという視点も併せて、私は戦略重点科学技術のところを絞り込んで、各有識者議員の中で合意を得ていきたいと思っております。

それから、各専門家からいただいた意見は本当に貴重なことがあります。活きた推進方策の中に反映したものと、どうしても4月からのPDCAの中の、どちらかということ、DCAになると思います。こういうことにきちんと盛り込んでいくものの御指摘は随分あると思います。

例えば、茂原委員からは、常設の戦略検討組織が要るのではないかということの御指摘がありました。この辺は、是非4月からのこの第3期基本計画の実行段階の全体の門構えの中で、このフロンティア分野はどういうふうにきちんとしていくのかという組み立てを私も考えて、有識者議員の皆さん方と決めていきたいと思っております。

そういう意味で、12月来からの貴重な御提言、御意見は、3月中に反映するものと4月からの実行段階に反映するものとで分けて、議員として活用させていただきたいと思っております。本当に4か月の長い時間、ありがとうございました。

○久保田主査 柘植議員、どうもありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、本日の会合は終了とさせていただきたいと思えます。本日の会合の内容につきましては、いつもと同じですが、まず議事概要につきましては、会合参加者の御確認をいただいた後、ホームページに公開させていただきますので、そのことを御承知いただければよろしいかと思えます。

閉会でございますが、特にこれだけは申しておきたいということはございますでしょうか。よろしいですか。

事務局からはいかがでしょうか。

○中村参事官 特にありません。

○久保田主査 それでは、閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。